

令和7年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	78	学校名	結城第二高等学校					課程	定時制			学校長名	堀川 洋			
教頭名	鈴木 好史				高橋 良武				事務(室)長名				北川 健一			
教職員数	教諭	33	養護教諭	2	常勤講師	3	非常勤講師	21	実習助手ALT	3	事務職員	4	技術職員等	5	計	75
生徒数	小学科	1年次		2年次		3年次		4年次		合計		合計	クラス数			
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通(午前)科	19	21	13	16	20	18	1	1	53	56	109	6クラス			
	普通(午後)科	13	26	18	15	18	13	5	5	54	59	113	6クラス			
普通(夜間)科	2	1	5	1	8	1	3	0	18	3	21	4クラス				

2 目指す学校像

これまでの学校生活で個性・能力を十分に発揮できなかった生徒たちに対して、「人とつながるオンリーワン、みんなが資源、みんなで支援」を基調とした学校像を目指す。

- 1 個に応じた指導をとおし、向上心を高め、自己実現を目指す学校
- 2 自己肯定感を培い、自他を理解・受容し、社会性をはぐくめる学校
- 3 地域社会と連携し、いつでもだれでも学べる、地域に開かれた学校
- 4 本校に携わるすべての人がWell-Beingであるために、自他を尊重し、互いの長所を生かして物事に取り組める学校

3 三つの方針(スクール・ポリシー)

「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーションポリシー)	これまでの学校生活で個性・能力を十分に発揮できなかった生徒たちに対して、「人とつながるオンリーワン、みんなが資源、みんなで支援」を基調とした教育活動により次のような生徒の育成を目指します。 1 基礎学力を身につけ、向上心を高め、自己実現を目指す生徒。 2 自己肯定感を高めながら、自他を理解・受容し、社会性が身についた生徒。 3 地域を大切に考え、地域社会に主体的・協同的に取り組める生徒。
「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	多様化する生徒に対応した学習の形態を準備し、そのニーズに応えるとともに、生徒一人ひとりの自己理解、自己実現を促すために次のような教育活動を行います。 1 多彩な選択科目と、少人数や習熟度を取り入れたわかりやすい授業を行います。 2 心のサポートを充実し、生徒会活動、学校行事、ボランティア活動などにより、思いやりの心を育成します。 3 地域に開かれた学校を目指し、広い視野を備えた社会性と地域社会に貢献する姿勢を育てます。
「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミッションポリシー)	お互いを大切にしながら学び合い、協力し合う学校を目指して、次のような生徒を募集します。 1 毎日の学習に誠実に取り組み、基礎学力の定着に向けて努力しようとする生徒。 2 他者への思いやりの心を持ち、尊重しながら協力しようとする気持ちを持つ生徒。 3 地域社会に興味を持ち、社会貢献に目を向けることができる生徒。

4 現状分析と課題(数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・真面目な態度で学習に取り組んでいる。 ・生徒間の学力の差が大きく対応が難しい。 ・自ら主体的に取り組むさらなる積極性が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら主体的に学習に取り組む姿勢を育めるよう、個に応じた支援の充実。 ・学力格差のある生徒の、集団の中での個に応じた支援方法の確立。 ・ICTを活用した教材の共有化及び授業準備等の効率化。 ・基本的な学力が身につくようにするための、各教科の指導法の確立と、他教科との連携。
生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情とコミュニケーション能力が必要である。 ・規範意識や自律的生活習慣が確立していない。 ・様々な安全教育や環境整備を維持し、定着させている。 ・学習サポーターやキャンパスエイド等を利用して、生徒の支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感・自己有用感が見いだせず、物事に積極的に関わることに難がある生徒の自己啓発。 ・良好な人間関係づくりに対するサポート体制の強化。 ・外部機関や地域との連携を通じた生徒の人間性向上。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の適性に合った進路希望を持つことが難しい生徒が多い。 ・多様な進路希望を持つ生徒が多い。 ・学校全体の連携強化を図る必要がある。 ・卒業時に進路が未決定の生徒が2割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路意識の向上と将来を見据えた適切な勤労観や職業観の育成。 ・年次と進路が連携し、外部機関を活用した進路ガイダンス等の充実。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・三部制のため、工夫して効率的な運営に努めている。 ・部活動の活動場所や活動時間の確保が難しく、加入率も13%台で低迷している。 ・自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返りたりすることによる、自身の変容や成長を自己評価できるような場面が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒育成の目標に基づいた、活発で円滑な学校行事の運営。 ・部活動の加入率の向上と主体的な活動の推進。 ・ホームルーム活動を中心として、キャリア・パスポートを活用した系統化したキャリア教育の実施。
教育相談活動	<ul style="list-style-type: none"> ・中学時代に不登校などの欠席が多い生徒が半数以上を占めている。 ・友人関係や家族関係の問題を多く抱えている生徒が多い。 ・キャンパスエイド制度を利用する生徒が固定化しており、広く周知する必要性を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の連携を強化及び生徒理解の一層の促進。 ・教職員向けの研修会の実施、校外研修への積極的参加等による教育相談技術のスキルアップ。 ・生徒が利用しやすい教育相談体制のさらなる工夫。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材の参画・確保や研修等の実施について、推進している。 ・部活動外部指導者制度の活用を継続している。 ・時間外勤務時間が45時間をこえる教職員はいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SC、SSW、SSS、部活動外部指導者等の活用の充実。 ・同僚性の構築と業務の平準化の推進。 ・校務支援システムの有効的な活用と業務の効率化。 ・ワークフローの積極的な利活用。
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイノート等を利用することにより、生徒への配慮を重要視している。 ・電子黒板等のICTを利用した授業が平常化している。 ・探究の時間での生徒発表など、生徒の成長を促す時間づくりに努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業におけるICT機器の更なる利用促進。 ・授業のユニバーサルデザイン化の推進と分かる授業の実践。 ・一人ひとりを大切に授業づくりと、生徒が自らの成長を感じとれる授業の推進。

5 中期目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 組織的にキャリア教育を推進し、生徒の自己実現を図る。 2 規範意識の高揚、自律的生活習慣の向上に努めるとともに教育相談体制の充実を図る。 3 地域からの信頼・支援、教育力を得るための取組を推進する。 4 教師と生徒との信頼関係により、安全で安心して通える学校づくりを推進するため、学習環境の維持改善や学校行事、部活動、ボランティア活動などの特別活動の推進、教師の研修機会の設定を積極的に行う。 5 教師のこれまでの働き方を見直し、教師自身が授業を磨き、日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、教師自身の人間性や創造性を高め、生徒たちに対して効果的な教育活動を行えるようにする。
--

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
主体的・意欲的学習態度の育成による基礎学力の向上と、考える力の育成	① 言語活動を取り入れた授業形態等の工夫改善に努める。 ② 集団の中で個に応じた指導を可能とするように、学習環境を整備し指導力を高める。 ③ 生徒が主体的・意欲的に学習に取り組めるような指導を実践する。 ④ ICTを活用し生徒が自己学力の伸長を確認し、学習意欲の向上や考える力の育成につながる指導を実践する。
規範意識の醸成、コミュニケーション力の向上を図り、自律的生活習慣の確立及び社会貢献できる豊かな人間性の育成	⑤ 自己肯定感を高め、自律的生活習慣を確立する等、健やかな成長の基礎形成を徹底する。 ⑥ 問題行動の早期発見に努め、関係機関との連携を密にすると同時に、未然防止と早期解決に努める。 ⑦ 安全教育や情報モラル教育を推進する。 ⑧ 社会奉仕体験活動を充実させ、地域と連携した多様な活動を推進する。 ⑨ コミュニケーション力の向上や豊かな心育成とともに、規範意識を培うための取組を推進する。
組織的な相談体制に基づく生徒への心理的な援助の促進	⑩ 研修会等を通して個々の教職員のスキルアップを図る。 ⑪ スクールカウンセラー、キャンパスエイド及び関係職員が連携協力し、支援体制の充実を図る。 ⑫ 各生徒の心身の健康や発達についての的確な把握に努め、必要に応じて校内および外部諸機関との連携により、適切な対応をとる。
一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実	⑬ 特別な教育的支援を必要とする生徒への理解と指導力の向上を図る。 ⑭ 学習上または生活上の困難に対応するための、個に応じた効果的な指導・支援の工夫を行う。 ⑮ 通級による指導では、「個別的教育支援計画」及び「個別の指導計画」を効果的に活用しながら一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を実践する。
進路意識の向上及び進路実現に必要な能力の育成と情報提供	⑯ キャリア教育を組織的に推進し、社会性や職業観を養う。 ⑰ 進路ガイダンスの充実や適切な進路情報を提供することで、進路意識の向上を図る。 ⑱ 多様な生徒に対応した指導に取り組み、生徒の主体的な進路選択や進路実現を図る。
より積極的な特別活動の広がり実践	⑲ 多くの生徒が参加できる学校行事を企画・運営する。 ⑳ できるだけ生徒が参加できる学校行事を企画・運営する体制を整える。また部活動等を通して、生徒の主体性や積極性を引き出す。 ㉑ ホームルーム活動を中心としてキャリア・パスポートを活用した活動を行い、系統的なキャリア教育を進め、生徒の自己理解、教員の生徒理解 ㉒ キャリア・パスポートによって学習や生活の見通しを持つことにより、目標の明確化と主体的継続的に取り組む態度を育成する。
真に開かれた学校づくりと地域との連携の推進	㉓ 地域行事やボランティア活動への参加を推進するとともに、地域人材と連携を図り、協働して取り組む活動の充実を図る。 ㉔ 学校設定科目での聴講生の受け入れや部活動等での地域交流を通し、相互の教育力を共有する。 ㉕ PTA活動の充実を図り、保護者との連携を深め生徒支援をより効果的なものとする。
「働き方改革」と学校運営体制の充実	㉖ 時差出勤を利用し、ワークライフバランスを意識した働き方を推進していく。 ㉗ 教科内・教科間における教材の共有や分掌間の情報共有を密にして、業務の省力化を図る。スクラップ・アンド・ビルドの考え方で慣習にとらわれず、業務を精選する。 ㉘ 「チーム学校」の実現に向け、SC、SSW、SSS、部活動外部指導者等の活用と連携、キャンパスエイド、学習サポーターの活用を推進する。
授業改善による基礎学力の定着	㉙ 保護者アンケートの学習指導の項目において、肯定的な意見が80%以上を占めることを目指す。 ㉚ 教材・教具や学習のツールとして効果的にICTを活用し、視覚的に理解しやすい授業により基礎学力の定着を図る。 ㉛ 「生徒による授業評価」の授業満足度において肯定的な意見が80%以上(3.4以上)になることを目指す。